

JA全厚連情報



JA長野厚生連 第35回長野県厚生連薬剤師研究会学術大会を開催

目 次

- ビジョン実現のための戦略・組織を動かす論点等について研修
厚生連経営管理職層育成研修会（経営理論編）をWEB開催 1
- 設備投資意思決定の応用演習等について研修
厚生連経営管理職層育成研修会（応用編第2クール）をWEB開催 3
- 本会・歸山理事長のインタビュー記事が掲載
農業協同組合新聞 JAcom (12/23付) 4
- 新たな地域医療構想の考え方について研修
厚生連医療スタッフ応援プログラムを開催 5
- 新リース会計制度の基本的な考え方について研修
新リース会計セミナーをWEB開催 6

・通信員だより

- 「第10回連携フォーラムひらか」を開催しました（平鹿総合病院） 7
- 「湯沢雄勝地域緩和ケア研修会 2025」を開催しました（雄勝中央病院） 8
- J A常陸からの正月飾り（総合病院水戸協同病院） 9
- 加藤徹男所長に功労賞 地域医療への長年の貢献を評価（J A茨城県厚生連） 10
- 産婦人科 4Dエコー外来の予約を開始しました（相模原協同病院） 11
- クリスマス病棟訪問を行いました（伊勢原協同病院） 12
- 第35回 長野県厚生連薬剤師研究会学術大会を開催（J A長野厚生連） 13
- 「自動体外式除細動器4台・携帯型超音波診断装置1台」受贈（J A富山厚生連） 15



©よい食プロジェクト



ビジョン実現のための戦略・組織を動かす論点等について研修

厚生連経営管理職層育成研修会（経営理論編）をWEB開催

本会は、厚生連経営管理職層育成研修会（経営理論編）の2日目（令和7年12月9日）及び3日目（令和8年1月8日）をWEBで開催し、10厚生連から21名が参加した。

日程	研修内容
2日目 (令和7年12月9日)	ビジョン実現のための戦略・経営計画 【講義】 <ul style="list-style-type: none">・経営ビジョン・ビジョン実現への戦略・戦略実行のための計画 【ワーク】 <ul style="list-style-type: none">・戦略基本方向設定
3日目 (令和8年1月8日)	戦略・経営計画を実行するための組織づくり 【講義】 <ul style="list-style-type: none">・戦略実行のための組織とは・組織を動かすための前提 【ワーク】 <ul style="list-style-type: none">・組織簡易診断、課題設定・研修全体の振り返り

研修内容

2日目は、ビジョン実現のための戦略・経営計画をテーマに研修を行った。戦略実行のための計画では、明確にすべき要素として、①ゴール／ビジョン（定量・定性的な目標）、②基本方針（重視する考え方、差別化方向など）、③課題とKPI（管理指標と目標値）、④行動計画（施策・分担・タイミング）、⑤資源計画（組織体制・資金・人員）を取り上げ、「手段ではなく目的・成果を明確にすること」、「段階的に達成する観点」、「誰が、何を、どのように、いつまでに行うのかを明確にすること」など、戦略・計画策定時の留意点を学んだ。また、ワークでは、「戦略構想の基本：自施設の戦略方向設定」と題したシートを用い、①外部環境分析、②内部環境分析、③SWOT分析、④戦略基本方向の整理、⑤長期展望の検討を行い、受講者が作成したものを作成したものを元に各グループに分かれてディスカッションを行った。

参加者からは「SWOT分析については、育成評価制度による部門目標の立て方で学んだが、考え方について今回の講義のように細かくは学んでいないので大変参考になった」等の感想が寄せられた。

戦略とは

戦略とは、企業の目標であるビジョン（ありたい姿）を実現するための戦力を総合的に強化し運用する方策、道筋

戦力とは：人、モノ、カネ、情報といった経営資源

どのようにありたい姿を実現するか？
そのシナリオ、資源配分、重要課題

「ありたい姿」を目的とすると
「戦略」は手段的な位置づけ

現在の姿 → 戰略 → ビジョン（ありたい姿）

将来(10年後)の姿:ビジョン
企業が将来実現したい大まかな目標

定性的なありたい状態、定量的な長期目標

Confidential © The Business Innovation Laboratory Inc. 5



研修のようす

3日目は、戦略・経営計画を実行するための組織づくりをテーマに、1. 組織活動の基本（再確認）、2. 組織を動かす論点について研修を行った。

組織を動かす論点として、①周囲の巻込み、②チーム内の信頼関係の構築、③チーム内の責任と権限、④周囲の行動変革、⑤周囲のやる気の引き出し、⑥葛藤への対応（調整/交渉）、⑦メンバーとの対話、⑧メンバーの育成、の8つを取り上げた。特に「周囲の巻込み」については、「共通の目的」を達成するために、「分業している個人同士」が「対話」を通じて「集団として統合される」ことの重要性を学んだ。また、自組織内にとどまらず、社外の関係者も巻き込み対象となること、さらに、相手に期待する役割を常に意識し、明確に伝えることの重要性について理解を深めた。

その後、ワークシートの「簡易診断表」及び「自組織の変革課題」を用いて、グループに分かれてディスカッションを行った。

参加者からは「多くの資料の中からポイントを絞って教えて頂き大変参考になつた」「毎回違う方と実務的な意見交流ができ良かった」等の感想が寄せられた。

設備投資意思決定の応用演習等について研修

厚生連経営管理職層育成研修会（応用編第2クール）をWEB開催

本会は、令和7年12月11日、12日の両日、厚生連経営管理職層育成研修会（応用編第2クール）をWEBで開催し、9厚生連から21名が参加した。

本研修会は、将来、病院・施設の運営および管理を担う人材の育成を目的に、経営管理に必要な財務知識の習得とマネジメント能力の向上を図るとともに、参加者相互の情報交換やネットワーク構築を目的として、平成23年度から開催している。

研修は、講義、演習、グループディスカッションで構成されており、第2クールでは、①財務会計と管理会計の違い、②設備投資意思決定の応用演習、③事業計画策定の重要性、④原価計算の応用演習について学んだ。講師については、第1クールに引き続き有限責任監査法人トーマツが担当した。

初日は、財務会計と管理会計の違いについての講義の後、設備投資意思決定の応用演習を行った。

設備投資意思決定においては、事前評価および定期的な事後評価が重要であることを学んだ。特に事前評価では、代表的な4つの意思決定手法のうち、回収期間法（設備投資によって得られる利益により、投資額をどの程度の期間で回収できるかを測定する方法）と、正味現在価値法

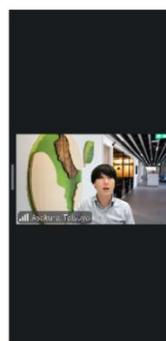
（将来得られるキャッシュフローを資本コストで割り引いて現在価値に換算し、そこから投資額を差し引いた正味現在価値を基に投資の収益性を評価する方法）について理解を深めた。その後、グループに分かれ、両手法を用いたディスカッションを行った。

2日目は、事業計画策定の重要性および原価計算の応用演習についての講義を受けた。事業計画策定の重要性については、不確実性の高い経営環境や増大する資金需要に対応するため、定量的な指標に基づく事業計画の策定が不可欠であることを学んだ。また、現状分析の方法や数値への落とし込み、計画策定後の管理手法について理解を深めた。

設備投資の意思決定においては多様な判断要素がありますが、重要なことは適切な事前評価と定期的な事後評価を実施することです。

本講義のまとめ

- 設備投資の影響は多額かつ長期に及ぶため、適切な意思決定が必要です。
 - 設備投資の意思決定の代表的な手法は4つあります。
(回収期間法、投資利益率法、正味現在価値法、内部利益率法)
 - 事前評価では、これらの手法による定量的な評価の他、想定する使用状況なども踏まえて総合的に判断します。
 - 定期的な事後評価により事前評価時の想定との乖離を把握して、必要に応じて対応策を講じる必要があります。
- （最後に…）
- 最初から全ての設備投資について事前評価や事後評価を実施することは、実務上難しい場合があります。
例えば、収益を生み出さない電子カルテのように高額な投資であっても、費用削減効果など将来のキャッシュフローの測定が高度な見積もりを必要とする設備投資もあります。
そのため、将来のキャッシュフローを測定しやすい、収益を生み出すCTやMRIのような高額な医療機器への投資から順次設備投資意思決定のプロセスを取り入れる、という方法も取り得ると考えます。



研修のようす

本会・歸山理事長のインタビュー記事が掲載

農業協同組合新聞 JAcom (12/23 付)

令和7年12月15日、本会の歸山好尚代表理事理事長が、農業協同組合新聞を発行しニュースサイト JAcom を運営する農協協会よりインタビューを受けた。

当日は、急速な高齢化、人材不足、物価高による経営のひつ迫を背景に、医療提供体制の維持・存続が危ぶまれる中、地域医療を支える厚生連病院が果たすべき役割と今後の展望についてインタビューが行われた。

その中では、厚生連病院が置かれている厳しい環境や対処すべき課題を説明とともに、補正予算による下支えに加えて、次年度予算で診療報酬の引き上げが不可欠であること、地域医療を維持するために、中央行政や国会議員、地方自治体とともに課題解決に取り組む必要があることを訴えた。

記事は以下のリンクから参照が可能

【JAcom12月23日付】(同内容は【農業協同組合新聞12月30日号】にも掲載)

URL <https://www.jacom.or.jp/noukyo/news/2025/12/251223-86524.php>

行政も巻き込み地域全体で厚生連病院を支える 経営改善には診療報酬引き上げが不可欠



インタビューの様子(農業協同組合新聞 JAcom)

新たな地域医療構想の考え方について研修

厚生連医療スタッフ応援プログラムを開催

本会では、厚生連病院に勤務する医療スタッフが現場で直面する課題について理解を深め、その解決の一助となる場を提供することを目的として、「厚生連医療スタッフ応援プログラム」を開催している。

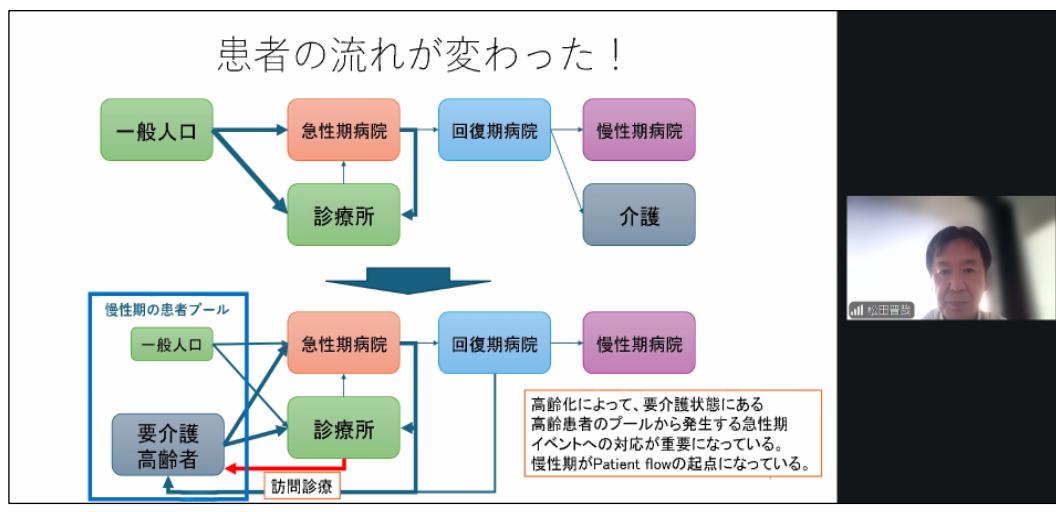
令和7年12月18日、本プログラムをWEB開催し、16厚生連・50事業所から159名の役職員が参加した。

今回は、各厚生連が新たな地域医療構想の検討を進めるにあたり、自院が果たすべき医療機能を検討・分析するための「地区診断」について理解を深めることを目的に、福岡国際医療福祉大学 ヘルスサービスリサーチセンター所長の松田晋哉氏を講師に迎え、「新たな地域医療構想の考え方」と題してご講演いただいた。

講演では、厚生労働省において医療提供体制や診療報酬制度等に関する各種検討会の委員等を歴任され、専門的知見に基づき制度設計や政策立案に深く関与してこられたご経験を踏まえ、地区診断の考え方や実践的手法について、具体例を交えながら分かりやすくご説明いただいた。

参加者からは、「自身の病院の立ち位置を見極め、人口減少に対応する体制づくりの必要性を具体的に感じることができた」「実際の地域や病院を例にした分析が参考になった」「新たな地域医療構想に基づく再編協議を進めるにあたり、大きなサジェスチョンを得ることができた」等、多くの感想が寄せられた。

また、後半では地域医療構想に関連し、厚生労働省のオープンデータを活用して、周辺病院との患者数・救急患者搬送数の比較が可能な分析ツールの作成・配布について、本会から説明を行った。



福岡国際医療福祉大学 ヘルスサービスリサーチセンター所長 松田晋哉氏

新リース会計制度の基本的な考え方について研修

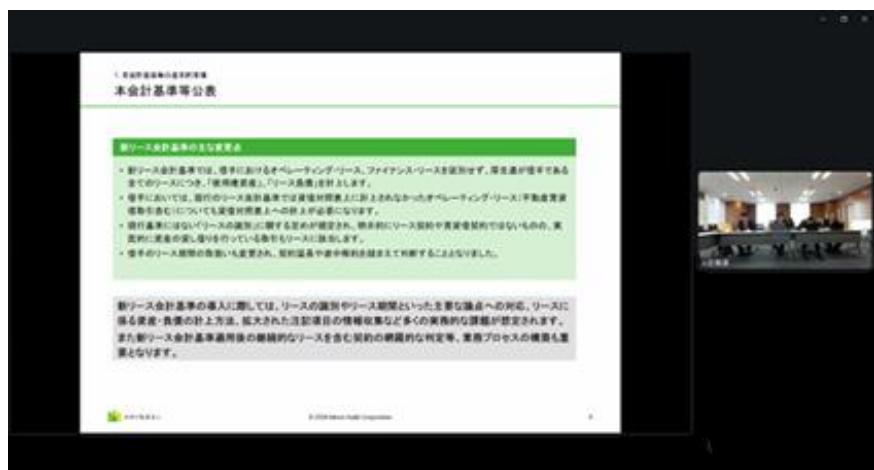
新リース会計セミナーをWE B開催

本会は1月19日、新リース会計セミナーをWE Bで開催し、27厚生連から約200名が参加した。本セミナーは、令和9年4月1日開始する事業年度から適用される新リース会計について理解を深めるために開催したもので、当日は、「新リース会計の基本的な考え方と制度の概要について」と題し、みのり監査法人 公認会計士 大塚隆弘氏、公認会計士 三上英亮氏による講演が行われた。

新リース会計基準では、契約名称にかかわらず、「リース」の定義を満たす取引については、原則として借手のすべてのリースを対象に資産および負債を計上することとされている。従来区分されていたオペレーティング・リースとファイナンス・リースの別を設けず、借手であるすべてのリースについて、「使用権資産」および「リース負債」を計上する（オンバランス）ことが求められる点について説明があった。

今後、検討が必要と考えられる事項として、①リース契約（不動産賃貸借契約を含む）の洗い出しと、リース取引一覧表（管理台帳）の整備、②新たな定義に基づくリースの網羅的な識別およびリースと非リースの区分、③延長オプション等を考慮したリース期間の検討、④重要性に基づく簡便的な取扱い（少額リース等）や経過措置の採否などが挙げられた。

参加者からは、「再リースを繰り返している場合の契約期間はどのように考えるべきか」「農協法における固定比率への影響はどうなるのか」「賃借契約と保守契約が一体となった契約はどのように判断すればよいのか」など



など、日常業務に直結する質問が寄せられた。

本会では、新リース会計制度への対応に向け、令和8年度にJA厚生連における実務対応をテーマとしたセミナーの開催を予定している。

□通信員だより□

「第10回連携フォーラムひらか」を開催しました

(JA秋田厚生連・平鹿総合病院)

平鹿総合病院（堀口聰病院長）横手市医師会の先生方をお招きし、「第10回連携フォーラムひらか」を開催しました。このフォーラムは「顔の見える関係」を構築し、地域の医療機関との連携強化を目的に毎年開催しています。はじめに、堀口院長から「新たな地域医療構想が進む中、先生方と協力し、横手地域の医療を守っていかなければならぬ。お力を借りしながら、更なる連携を図って参りたい」と挨拶し開会しました。

フォーラムでは当院から2題の講演と、横手市医師会の先生からは「当院における病診連携の現状」を講演いただき、参加者からはどの演題も興味深いものだったとの感想をいただきました。また、フォーラムの最後には地域医療連携室長から「ひらか連携のこれまでとこれから」と題し、当院の取組みや実績等を示し、横手地域で当院に求められる役割を果たしていくためには、クリニックや病院間での連携及び介護施設との連携も重要であることを訴え、ご理解とご協力を願いし閉幕しました。

参加者からは、「貴院の現状が知れる良い機会であった」「診療所で診ている患者さんがより専門的な治療や検査、あるいは入院や手術を必要とする時に安心してお願いできる病院があることは私たちにとって大きな支え」といった意見をいただきました。デジタル化の現代にあっても大切にすべきは「顔の見える関係」であると改めて感じ、今後も地域の医療機関や介護福祉施設関係者の皆様と一層の連携強化を図りながら、安心安全な医療提供に努めていきたいと思います。



フォーラムの様子

(齊藤瑞希通信員)

「湯沢雄勝地域緩和ケア研修会 2025」を開催しました

(JA秋田厚生連・雄勝中央病院)

雄勝中央病院（小松田敦病院長）では湯沢雄勝地域の緩和ケアの促進を目指し、緩和ケア研修会を毎年開催しています。この研修会は、がん等の診療に携わるすべての医療従事者が基本的な緩和ケアについて正しく理解し、知識や技術などを修得することを目的として、全国のがん診療連携拠点病院等で開催されており、研修会の受講者には厚生労働大臣から修了証が交付されます。

今年度は院外の医師2名を含む薬剤師1名、理学療法士1名、看護師5名、計9名の医療従事者が受講しました。3名の外部講師の先生方や、当院の緩和ケアチームスタッフの協力のもと、講義のほか、コミュニケーションのロールプレイや、グループワーク（事例検討）を行いました。グループワークでは講師の先生やスタッフのサポートのもと、がん患者さんの症状の緩和や、患者さんの療養場所の選択への支援について学び、活発な意見交換が行われました。

終了後に行ったアンケートでは、受講者から「グループワークなどを通じて実践的な知識・技術が得られた」「日頃のコミュニケーションで不安に思っていたことなどを解決することができた」「他職種との連携が非常に重要だと感じた」などの感想をいただきました。

当院では地域の中核病院として、患者さんやご家族が安心して療養するための支援ができるよう、引き続き病院全体で取り組んでまいります。



研修会の様子

(斎藤瑞希通信員)

J A 常陸からの正月飾り

(JA茨城県厚生連・総合病院水戸協同病院)

J A茨城県厚生連が運営する総合病院水戸協同病院（秋月浩光病院長）において、このほど、JA常陸奥久慈枝物部会より正月飾りが贈呈されました。

白梅や蠟梅（ろうばい）、木瓜（ぼけ）など、季節感あふれる枝物で丹念に仕立てられた正月飾りは、縦横約3メートルにも及ぶ迫力ある大きさで、同院正面玄関に設置されました。華やかでありながらも落ち着きのある佇まいが、新年を迎えるにふさわしい雰囲気を演出し、病院を訪れた患者さんやご家族、来院者の目を楽しませました。

また、本会をはじめ各連合会が集う茨城県JA会館の入口にも、同様の正月飾りが設置されました。会館を訪れる関係者や来館者を華やかに迎え入れ、地域農業の魅力と生産者の想いを伝える装いとして、多くの方々を魅了しました。



水戸協同病院に贈られた正月飾り

(先崎理恵通信員)

加藤徹男所長に功労賞 地域医療への長年の貢献を評価

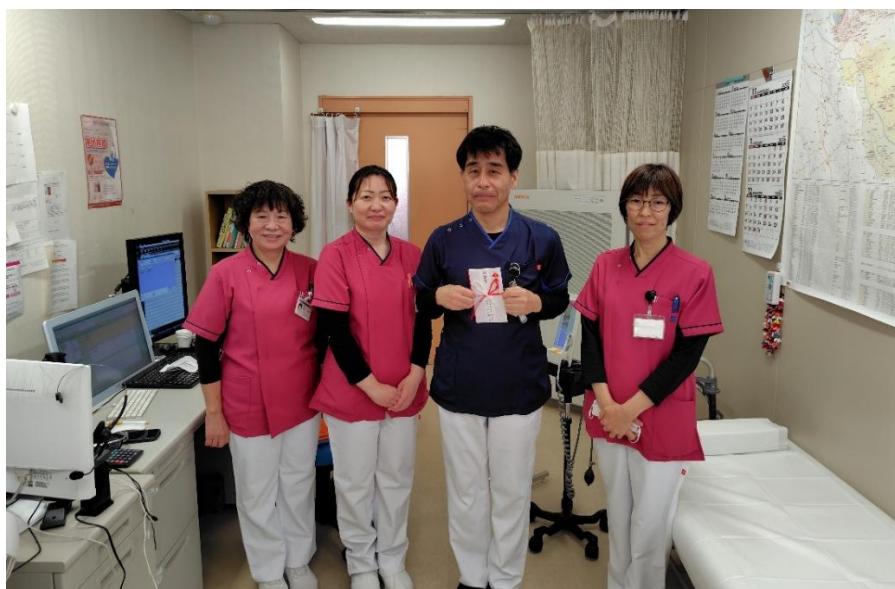
(JA茨城県厚生連)

J Aグループ茨城は令和7年12月26日、水戸市のJA会館において功労賞表彰式を行い、茨城西南医療センター病院附属八千代診療所の加藤徹男所長が表彰されました。

同診療所は、地域住民が安心して暮らせる環境づくりを目的に、健康増進や疾病予防の推進、医療体制の充実を図る拠点として、平成16年6月に八千代町の全面的な協力のもと、町役場敷地内に開設されました。

加藤所長は、平成28年(2016年)1月から同診療所に勤務し、総合診療医・家庭医として約10年にわたり地域医療を支えてきました。内科を中心に幅広い診療を行い、日常的な疾患への対応はもとより、予防医療や訪問診療にも積極的に取り組むなど、地域住民の健康と福祉に広く関わる医療を実践しています。

長年にわたる地域医療への献身的な取り組みと貢献が高く評価され、今回の受賞となった加藤所長は「地域の健康を支える医療に携わってきた10年の節目に、このような賞をいただき大変光栄です。西南医療センター病院の先生方や関係者、地域の皆さまの支えのおかげです」と感謝の意を示し、今後も地域医療の充実に尽力していく考えを語りました。



地域医療を支える八千代診療所の加藤所長(右から2番目)とスタッフたち

(先崎理恵通信員)

産婦人科 4Dエコー外来の予約を開始しました

(JA神奈川県厚生連・相模原協同病院)

「お腹の中で元気に育つ赤ちゃんの様子を、リアルタイムの映像でのぞいてみませんか?」

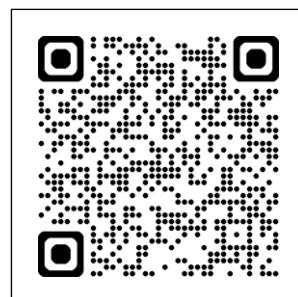
相模原協同病院(荒木正雄病院長)の産婦人科では、赤ちゃんの表情やしぐさをゆっくりご覧いただける最新の4Dエコーの予約を開始しました。

週数によって見え方が変わるので、それぞれの成長をお楽しみいただけます。

※目安: 16週~34週頃

【20週前後】 赤ちゃんのからだ全体が活発に動く様子が見えやすい時期です。

【30週前後】 お顔の表情や、指をしゃぶるような可愛らしい仕草が見えやすい時期です。



詳細は相模原協同病院の産婦人科
ページよりご確認ください。

こちらは完全予約制です。

(石井朋華通信員)

クリスマス病棟訪問を行いました

(JA神奈川県厚生連・伊勢原協同病院)

令和7年12月24日、伊勢原協同病院（鎌田修博病院長）ではサンタクロースやトナカイ、雪だるまの衣装に身を包み「クリスマス病棟訪問」を行いました。鎌田病院長をはじめとする病院職員が各病室を訪れ、入院中の患者さん一人ひとりにお見舞いの言葉をかけながら、クリスマスプレゼントのお菓子を届けました。

プレゼントにはキャンディや、栄養室が手作りしたクッキーを用意しました。病院長やサンタクロースの訪問に、患者さんからは多くの笑顔が見られました。

入院生活の中においても季節の行事を感じていただき、少しでも心安らぐひとときを過ごしていただけるよう、今後も取り組みを行ってまいります。



クリスマス病棟訪問の様子

(石井朋華通信員)

第35回 長野県厚生連薬剤師研究会学術大会を開催

(JA長野厚生連)

J A長野厚生連では令和7年12月20日、「第35回 長野県厚生連薬剤師研究会学術大会」を長野市・JA長野県ビルで開催しました。

本大会は、長野県厚生連薬剤師研究会を主体に、長野県薬剤師研修協議会や製薬メーカー等との共催により開催しています。医療情勢に即したテーマで講演や各事業所の研究・活動報告を行い、長野県厚生連病院の薬剤師の資質向上と病院間の連携強化を目的としています。

当日は、県下の厚生連病院等から薬剤師56名が参加しました。



会場の様子

学術講演会では、JA長野厚生連 佐久総合病院 佐久医療センター 糖尿病・内分泌内科部長の堀込充章先生を講師に「高血圧管理・治療ガイドライン2025について」をご講演いただきました。最新のガイドラインに基づく高血圧治療のポイントや実践的な管理方法について解説され、参加者から高い関心が寄せられました。



講演会の様子

特別講演では、JA広島厚生連 尾道総合病院 薬剤部長の別所千枝先生より「明日からできる、向精神薬・不眠・せん妄へのかかわりかたのコツ」をご講演いただきました。臨床現場で直面する課題に対し、実際の症例を交えながら薬剤師としての考え方やアプローチ、注意点など具体的な対応方法をわかりやすく紹介いただきました。

また、研究・活動報告では、JA長野厚生連薬剤師4名より研究・活動の報告が行われ、参加者は熱心に耳を傾けるなど、盛況のうちに学術大会は終了しました。

参加者からは「薬剤師としての患者さんとの関わり方に、ヒントを得られた。明日から実践できるポイントが多く、非常に有益だった」といった声が聞かれ、日々の業務に生かせる有意義な大会となりました。

さらに、若手職員からは「他病院の取り組みを知ることで、自施設の改善点が見えてきた。病院間の情報共有の重要性を改めて感じた」との意見があり、ベテラン職員からは「こうした交流によって、厚生連全体で質の高い薬剤師業務を維持できる。厚生連の組織を感じる」といった声も寄せられました。

本大会は、薬剤師の資質向上と病院間連携の強化に大きく寄与する機会となりました。

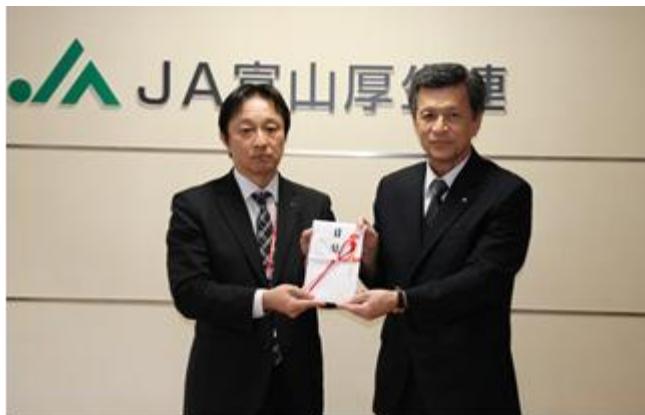
(内田康平通信員)

「自動体外式除細動器4台・携帯型超音波診断装置1台」受贈

(JA富山厚生連)

全国共済農業協同組合連合会（JA共済連）富山県本部より地域貢献活動の一環として、組合員・地域住民が健康で安心して暮らせる豊かな地域づくりを目的に厚生連高岡病院（柴田和彦病院長）に自動体外式除細動器4台・携帯型超音波診断装置1台を寄贈して頂きました。令和7年12月22日、JA富山厚生連本所において、JA共済連の此川県本部長より高木代表理事理事長に目録が贈呈されました。

自動体外式除細動器は心停止時に発生する心室細動などの致死性不整脈に対して電気ショックを与え、心臓の正常なリズムを回復させる機器で、緊急時の迅速な救命活動を支援します。携帯型超音波診断装置はワイヤレスで使用可能な装置で、2種類の探触子を一本化したプローブ構造となっており、腹部から表在・血管領域まで幅広い検査に対応できます。自動体外式除細動器は厚生連高岡病院内に整備させて頂き、携帯型超音波診断装置は救命救急センターをはじめ、病棟や外来にて使用させて頂きます。



目録贈呈の様子(左)此川本部長(右)高木代表理事理事長



自動体外式除細動器4台



携帯型超音波診断装置1台

(橋優人通信員)